

地質サイトカード

カードNo.		C-⑥-7	通しNo.	49	作成日	2025/4/28
サイト名		かせんざん 花仙山のメノウ脈				
基本情報	エリア	南部丘陵地 探訪サイト				
	区分	☒ 地質・地形	☐ 生態	☒ 文化		
	利用価値	☒ 科学	☒ 教育	☐ 観光・ツアー		
	所在地	松江市玉湯町玉造温泉周辺				
	アクセス	山陰道 玉造ICから約5km、約8分。出雲玉作資料館から北の高速道路下に、めのう公園がある。				
	周辺施設	☐ トイレ ☐ 売店 ☐ 飲食店 ☐ 駐車場(台) ☐ ウォーキングコース ☐ サイクリングコース ☐ 観光施設()				
	看板整備					
	留意点					
		位置情報		d-3		
保護・保全	法規制・関連団体等					
	保全メモ					
サイトの解説	みどころ	1500万年前の火山活動でできた安山岩に形成されたメノウとその利用の歴史。				
	地質・地形	縄文時代から石器や勾玉(まがたま)・管玉(くだだま)の材料として、メノウが花仙山周辺で採集されていた。ここでメノウ(瑪瑙、agate)と呼ぶものにはヘキギョク(碧玉、jasper)も含まれ、学術上は玉ずい(chalcedony)にあたる。花仙山は約1500万年前に陸上の火山から噴出した安山岩溶岩によって構成されている。この溶岩中の割れ目などの空間に地下水に溶けていたケイ素が沈殿してメノウが作られた。メノウは水晶(結晶質石英ともいう)やオパールからできている。割れ目にできたメノウは岩脈となっている場合が多い。実際に、自然の岩盤中に幅50cm前後のメノウ脈をメノウ公園でみることができるが、これだけ大きなメノウ脈は珍しい。				
	歴史・文化 生物・生態 等	『出雲国風土記』では花仙山は玉作山、玉湯川は玉作川と呼ばれており、メノウ製の玉は主に古墳時代に作られた。メノウから勾玉や管玉を作っていた玉作り遺跡が花仙山周辺で多数見つかっており、花仙山西麓から南西麓にかけては遺跡が密集して分布している。花仙山を構成している安山岩溶岩は比較的硬い岩石で、その西麓から南西麓ではとくに強い風化を受けて安山岩溶岩が粘土になっている部分がある。しかし、珪素と酸素だけからできているメノウは風化に強いため、周りの安山岩が粘土になってもメノウだけは風化しないでしばしば残る。風化した安山岩は長い年月の間に崖崩れや地すべりを起こしてメノウを伴って谷底を埋め、流水によって湯町川へと流された。固い岩盤中に坑道を掘る道具や技術が十分になかった古墳時代でも、花仙山の西～南西麓では谷底や湯町川沿いに散在するメノウを採集したと考えられる。今でも、湯町川河口付近の宍道湖底でメノウを拾うことができる。 メノウを削ったり、穴をあけて玉をつくった道具や作りかけのメノウなどを出雲玉作資料館でみることができる。また、その近くの史跡公園には、古墳時代の玉作り遺跡が復元されている。				
写真・図等		 				
参考文献		島根地質百選、大久保雅弘編(1980)改訂山陰地学ハイキング. たたら書房、149p.				